

職業実践専門課程の基本情報について

学校名	設置認可年月日	校長名	所在地																												
専修学校 インターナショナル デザインアカデミー	平成4年3月25日	前新 健	〒901-2131 沖縄県浦添市牧港1丁目60番地の14 (電話) 098-942-6780																												
設置者名	設立認可年月日	代表者名	所在地																												
学校法人KBC学園	平成6年3月14日	大城 圭永	〒900-0025 沖縄県那覇市壺川3-5-3 (電話) 098-835-4240																												
分野	認定課程名	認定学科名		専門士	高度専門士																										
工業	工業専門課程	インテリア・建築デザイン科(2年制) (インテリアデザインコース)		平成30年文部科学省 告示第32号	—																										
学科の目的	建築・インテリア業に関わる職人として、建築・インテリア設計(製図・CAD作業)、3DCG・BIM(3次元コンピュータグラフィックス)、模型作業、プレゼンテーション力(イラストレーター、フォトショップ、パワーポイント)など、さまざまな分野に関わる技術等について、専門的な知識・能力を身につけ、その知識に基づく実習を通して実務に関する実践的な技術・技能を身につけることを目的とする。																														
認定年月日	平成27年2月25日																														
修業年限	昼夜	全課程の修了に必要な 総授業時数又は総単位数	講義	演習	実習	実験	実技																								
2年	昼間	1756時間	351時間	1144時間	261時間	—	—																								
生徒総定員	生徒実員	留学生数(生徒実員の内)	専任教員数	兼任教員数	総教員数																										
20人の内数	15人	0人	3人	8人	11人																										
学期制度	■前期:4月1日~9月30日 ■後期:10月1日~3月31日			成績評価	■成績表: 有 ■成績評価の基準・方法 評価基準はA、B、C、Dの4種 方法は作品評価、書類試験結果、授業態度																										
長期休み	■学年始め:4月1日 ■夏季:7月21日~8月31日 ■冬季:12月24日~1月10日 ■春季:3月1日~4月10日 ■学年末:翌年3月31日			卒業・進級 条件	1)出席率90%以上 2)授業課題の提出 3)卒業制作、修了制作の提出 4)学費完納																										
学修支援等	■クラス担任制: 有 ■個別相談・指導等の対応 長期欠席者へのメンタル面、生活面等の相談対応			課外活動	■課外活動の種類 (例)学生自治組織・ボランティア・学園祭等の実行委員会等 展示会、各イベント参加  ■サークル活動: 有																										
就職等の 状況※2	■主な就職先、業界等(令和2年度卒業生) (株)スペースプラス、(有)やま店舗開発、(有)スタプランニング、 (株)佐平建設、大晋建設(株) ■就職指導内容 適性審査、自己発見検査、就職個別指導、面接指導 合同企業説明会、企業個別説明会 ■卒業生数 7 人 ■就職希望者数 7 人 ■就職者数 : 7 人 ■就職率 : 100 % ■卒業者に占める就職者の割合 : 100 % ■その他  (令和 2 年度卒業者に関する 令和3年 5月1日 時点の情報)			主な学修成果 (資格・検定等) ※3	■国家資格・検定/その他・民間検定等 (令和2年度卒業者に関する令和3年5月1日時点の情報) <table border="1"> <thead> <tr> <th>資格・検定名</th> <th>種別</th> <th>受験者数</th> <th>合格者数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>建築CAD検定3級</td> <td>③</td> <td>7人</td> <td>7人</td> </tr> <tr> <td>建築CAD検定2級</td> <td>③</td> <td>6人</td> <td>3人</td> </tr> <tr> <td>ADEC色彩士検定</td> <td>③</td> <td>7人</td> <td>7人</td> </tr> <tr> <td>インテリアコーディネーター</td> <td>③</td> <td>0人</td> <td>0人</td> </tr> <tr> <td>商業施設士補</td> <td>③</td> <td>6人</td> <td>6人</td> </tr> </tbody> </table> ※種別の欄には、各資格・検定について、以下の①~③のいずれかに該当するか記載する。 ①国家資格・検定のうち、修了と同時に取得可能なもの ②国家資格・検定のうち、修了と同時に受験資格を取得するもの ③その他(民間検定等)  ■自由記述欄 (例)認定学科の学生・卒業生のコンテスト入賞状況等			資格・検定名	種別	受験者数	合格者数	建築CAD検定3級	③	7人	7人	建築CAD検定2級	③	6人	3人	ADEC色彩士検定	③	7人	7人	インテリアコーディネーター	③	0人	0人	商業施設士補	③	6人	6人
資格・検定名	種別	受験者数	合格者数																												
建築CAD検定3級	③	7人	7人																												
建築CAD検定2級	③	6人	3人																												
ADEC色彩士検定	③	7人	7人																												
インテリアコーディネーター	③	0人	0人																												
商業施設士補	③	6人	6人																												
中途退学 の現状	■中途退学者 1名 令和2年4月1日時点において、在学者15名(令和2年4月1日入学者を含む) 令和3年3月31日時点において、在学者14名(令和3年3月31日卒業者を含む) ■中途退学の主な理由 進路変更  ■中退防止・中退者支援のための取組 担任による細やかなガイダンスとともに、臨床心理士によるメンタルケアを行う。 学生個別の対処法について学校・学生・保護者の3者で情報共有し立ち直りを促す。			■中退率	6.66 %																										
経済的支援 制度	■学校独自の奨学金・授業料等減免制度: 無 ※有の場合、制度内容を記入  ■専門実践教育訓練給付: 非給付対象 ※給付対象の場合、前年度の給付実績者数について任意記載																														
第三者による 学校評価	■民間の評価機関等から第三者評価: 無 ※有の場合、例えば以下について任意記載 (評価団体、受審年月、評価結果又は評価結果を掲載したホームページURL)																														
当該学科の ホームページ URL	http://www.ida.ac.jp/																														

1. 「専攻分野に関する企業、団体等(以下「企業等」という。)との連携体制を確保して、授業科目の開設その他の教育課程の編成を行っていること。」関係

(1)教育課程の編成(授業科目の開設や授業内容・方法の改善・工夫等を含む。)における企業等との連携に関する基本方針

- ①教育課程編成委員は、建築士やインテリアコーディネーター及び建築関連協会などの専門的知見を有する業界団体等の役職員から選任する
- ②卒業生の主な就業先である、建築設計事務所・インテリアデザイン事務所・インテリアコーディネーターの企業様と連携して教育課程の編成を行う事により、専門かつ実践的な知識・技術を習得した即戦力となる人材を育成する。
- ③専門分野における履修の中心となる建築設計、インテリアコーディネート、建築CAD・CG制作スキル等の教育内容に関して、教育課程編成委員会を通じて常に業界の最新情報を反映させる。
- ④上記①、②により編成された授業科目、内容が実践習得されているかどうかを、教育課程編成委員会による実践的視点で評価を受け、課題を浮き彫りにする事で教育の質の確保、更なる教育の質向上に活用する。

(2)教育課程編成委員会等の位置付け

※教育課程の編成に関する意思決定の過程を明記

学校の専門分野に対して業界関係者や企業の方々の実務に関する知識、技術などから意見交換を行う場として教育課程編成委員会を位置付ける。また教育課程編成委員により、企業等から提示された意見は12月から2月にかけて定期的なカリキュラム編成会議において速やかに次年度以降の教育課程(授業科目、授業方法・内容等)に検討し、反映される。

(3)教育課程編成委員会等の全委員の名簿

令和3年4月1日現在

名前	所属	任期	種別
伊良波 朝義	公益社団法人 沖縄建築士会 (有限会社義空間設計工房)	令和2年4月1日～ 令和4年3月31日(2年)	①
山里 健市	有限会社 エー・アイ・エム (一般社団法人 日本商環境デザイン協会 沖縄支部 支部長)	令和2年4月1日～ 令和4年3月31日(2年)	③
大城 美由紀	インターナショナルデザインアカデミー 教務2課	令和2年4月1日～ 令和4年3月31日(2年)	
亀島 英正	インターナショナルデザインアカデミー 教務2課	令和2年4月1日～ 令和4年3月31日(2年)	
比嘉 健矢	インターナショナルデザインアカデミー 教務2課	令和2年4月1日～ 令和4年3月31日(2年)	

※委員の種別の欄には、委員の種別のうち以下の①～③のいずれに該当するか記載すること。

- ①業界全体の動向や地域の産業振興に関する知見を有する業界団体、職能団体、地方公共団体等の役職員(1企業や関係施設の役職員は該当しません。)
- ②学会や学術機関等の有識者
- ③実務に関する知識、技術、技能について知見を有する企業や関係施設の役職員

(4)教育課程編成委員会等の年間開催数及び開催時期

(年間の開催数及び開催時期)

年2回 (5月、10月)

(開催日時(実績))

第1回 令和3年5月21日 16:30～17:30

第2回 令和3年10月22日 16:30～17:30

(5)教育課程の編成への教育課程編成委員会等の意見の活用状況

※カリキュラムの改善案や今後の検討課題等を具体的に明記。

- ・建築系の授業の割合が多く、インテリアデザインを深める授業を構築する。インテリアは業種を把握させることが必要なため、授業課題を企業や各団体(行政)から実践的な案件にする。
- ・コミュニケーション能力、チームワークを高める授業を構築する。設計授業を学年合同でチームをつくり、ディスカッションから制作まで行う。また、卒業研究発表でOB、OGを審査委員に招き知見を広げる。

2. 「企業等と連携して、実習、実技、実験又は演習(以下「実習・演習等」という。)の授業を行っていること。」関係

(1)実習・演習等における企業等との連携に関する基本方針

建築業界・インテリア業界における職業人に必要な知識・技能を習得するために、実習・演習の授業内容、手法に関して業界の専門的知見を有する企業等と連携し、実践的なカリキュラムや教材の作成および指導力の向上につなげる。

(2)実習・演習等における企業等との連携内容

※授業内容や方法、実習・演習等の実施、及び生徒の学修成果の評価における連携内容を明記

上記方針を実現するために、教育課程における科目について、建築・インテリア業界における専門的知見を有する企業等から職員を講師として迎える。BIM演習の授業では実務に即した企画力を養うため、連携企業の手掛ける実際の現場を用いながらのリノベーションの計画をたてる。企画では実際のマンション等の空き室を実社会のニーズを捉えた問題提起と提案する。演習を通して問題発見・解決を創造することの面白さを身をもって学ぶことを目標にした。授業評価に関してはデッサン力、設計業務の概略、プレゼンテーションなどの演習を実施し、実務力軸とした評価を担当講師にて行う。

(3) 具体的な連携の例※科目数については代表的な5科目について記載。

科目名	科目概要	連携企業等
リフォーム学	リフォーム学とは、単に修繕工法だけを学ぶのではなく住まい手の暮らしにフォーカスして講師の事例物件を参考にこれからの『建築再生』について学ぶ。	建築アトリエ・Treppen
モデリング	建築模型製作方法を学ぶ。図面の解き方、読み方を身につけ、各種材料の利用方法とそれらを加工する用具の使用技術を習得する	N青木クリエイト
家具制作	前期設計課題の住宅設計やインテリア計画で空間寸法を学んだ知識を実寸の家具制作に落とし込む。家具を設計することで、インテリア空間を読み取る考察力を身につける。	WOOD STOVE
構造力学	構造力学の基礎、断面の性質、建築構造物を合理的かつ経済的に設計するための基礎となる力学について講述する。	暮らしと建築の計画室
プロダクトブランディング1	ビジネスの課題解決や地域活性化に活かすデザインの価値を理解する。 2. ブランディングの本質を理解し、クリエイティブ思考とそれを可視化させるデザインの力について考える	沖縄デザインセンターゼロ

3. 「企業等と連携して、教員に対し、専攻分野における実務に関する研修を組織的に行っていること。」関係

(1) 推薦学科の教員に対する研修・研究(以下「研修等」という。)の基本方針

※研修等を教員に受講させることについて諸規程に定められていることを明記

専門的かつ実践的な知識・技能を有し即戦力となる人材を育成するためには、教職員一人ひとりが常に実務に関する最新の知識をもち、指導スキルを身につけなければならない。そのために下記の通り教員研修環境を整える。

①教育課程編成委員会に参画する企業等から講師を招いた実践的な知識・指導スキル研修。

②県などの公共事業によるセミナーなどの参加。(自己啓発)

③学内に設置される附帯教育講座を利用しての自己啓発。

④学校法人KBC学園教職員研修規程 第4条、第5条に基づき必要な知識技術の研修を実施する

上記研修を開催期間など考慮して、4月の年度初めまでに年間受講スケジュールを計画的に組み立て、受講している。

(2) 研修等の実績

①専攻分野における実務に関する研修等

□研修名「Vectorworksオープンキャンパス」

□連携企業等：A&A株式会社

□期間：令和2年7月22日(水)

□対象：建築系教員

□企業との連携内容：Vectorworks2020新機能体験セミナー・無料活用体験セミナー

□教育内容との関連性：新たな専門職教育(専門職大学)と社会・経済の変化に伴う人材需要に対応した建築系職業人を育成するカリキュラム開発について学びBIM演習などのCAD関連授業へフィードバックする

②指導力の修得・向上のための研修等

□研修名「沖縄県専修学校各種学校協会・新任教員・准教員研修会 B日程」

□連携企業等：一般社団法人 沖縄県専修学校各種学校協会

□期間：令和3年1月13日(水)～1月20日(水)

□対象：教務部職員

□企業との連携内容：専修学校教育のあり方と教育指導法について学習する。

□教育内容との関連性：専修学校教員としての職業教育の指導法を学び、職業人育成のためのカリキュラム構築と授業構成へ反映させる。

(3) 研修等の計画

①専攻分野における実務に関する研修等

□研修名「Vectorworks教育シンポジウム2021」

□連携企業等：A&A株式会社

□期間：令和3年8月18日(水)

□対象：建築系教員

□企業との連携内容：CADと教育について

□教育内容との関連性：新たな専門職教育(専門職大学)と社会・経済の変化に伴う人材需要に対応した建築系職業人を育成するカリキュラム開発について学びBIM演習などのCAD関連授業へフィードバックする

②指導力の修得・向上のための研修等

- 研修名「沖縄県専修学校各種学校協会・新任教員・准教員研修会 A日程」
- 連携企業等：一般社団法人 沖縄県専修学校各種学校協会
- 期間：令和3年8月頃
- 対象：教務部職員
- 企業との連携内容：専修学校教育のあり方と教育指導法について学習する。
- 教育内容との関連性：専修学校教員としての職業教育の指導法を学び、職業人育成のためのカリキュラム構築と授業構成へ反映させる。

4. 「学校教育法施行規則第189条において準用する同規則第67条に定める評価を行い、その結果を公表していること。また、評価を行うに当たっては、当該専修学校の関係者として企業等の役員又は職員を参画させていること。」関係

(1)学校関係者評価の基本方針

当校の教育理念は、高度な技能技術を身に付け、人間性豊かな永久戦力となる人財を育成する事である。この教育理念に基づき実践的な教育が実現できているか、また、その教育を実現する為に必要な環境が整っているかについて、学校関係者評価委員会を設置して下記に示す評価項目から評価する。評価結果については、学校長を通じて即座に次年度の学校運営に反映させる。

(2)「専修学校における学校評価ガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの評価項目	学校が設定する評価項目
(1)教育理念・目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>①教育理念・育成する人財像が、「学生の手引き」に記載されているか</li> <li>②教育理念・育成する人財像が、教職員手帳等に記載されているか</li> <li>③教育理念・育成する人財像が、HP、パンフレット・募集要項等に記載されているか</li> <li>④各学科の修業期間における教育事業計画が文書化され、提示されているか</li> </ul>
(2)学校運営	<ul style="list-style-type: none"> <li>①年度予算、中期計画が策定されているか</li> <li>②予算は計画に従って妥当に執行されているか、定期的に確認しているか</li> <li>③理事会・評議委員会が定期的に開催されているか</li> <li>④運営会議が定期的に開催されているか</li> <li>⑤人事考課制度は文書化されているか</li> <li>⑥賃金制度は文書化されているか</li> <li>⑦採用制度は文書化されているか</li> <li>⑧勤務管理が適正にされているか</li> </ul>
(3)教育活動	<ul style="list-style-type: none"> <li>①教育理念の達成に向けた修業年限分のカリキュラムが文書化されているか</li> <li>②カリキュラム作成の為にカリキュラム作成委員会があるか</li> <li>③カリキュラムを作成するに当たり、業界関係者等の外部関係者の意見を取り入れているか</li> <li>④シラバス或いは講義要項等が作成されているか</li> <li>⑤学生によるアンケート等による授業評価が定期的に行われているか</li> <li>⑥授業改善のための組織的取組が行われているか</li> <li>⑦企業・施設等での職場実習があるか</li> <li>⑧キャリア教育等を行っているか</li> <li>⑨ビジネス教育を行っているか</li> <li>⑩コミュニケーション能力の向上に向けた取組を行っているか</li> <li>⑪専門性や指導力等の向上のための外部研修・研究へ派遣しているか</li> <li>⑫教員の資質の向上の為に、自己啓発への支援をしているか</li> <li>⑬非常勤講師との定期的な情報共有の為にミーティング等を開催しているか。および非常勤講師からの報告書等が提出されているか</li> </ul>
(4)学修成果	<ul style="list-style-type: none"> <li>①就職に関する目標を設定したか</li> <li>②就職に関する目標は教職員に共有されているか</li> <li>③就職活動に関する記録がなされているか</li> <li>④学生の就職結果に関して検証・報告がされたか</li> <li>⑤資格・検定・コンペに関する目標を設定したか</li> <li>⑥資格・検定・コンペに関する目標・計画が教職員に共有されているか</li> <li>⑦資格・検定・コンペ結果に関して検証・報告がされたか</li> <li>⑧進級率の目標を設定しているか</li> <li>⑨進級率に関する目標・計画が教職員に共有されているか</li> <li>⑩退学結果に関して検証・報告がされたか</li> </ul>

(5) 学生支援	<ul style="list-style-type: none"> <li>①担任による面談が定期的に行われているか</li> <li>②担任は、適切に配置されているか</li> <li>③学生のメンタルヘルスについて相談できる窓口が整備されているか</li> <li>④学生指導に関する教職員の相談に応じる体制があり、周知されているか</li> <li>⑤学生の面談・相談記録があるか</li> <li>⑥定期的に健康診断を行っているか</li> <li>⑦奨学金制度等の経済的支援があるか</li> <li>⑧保護者との計画的な相談会・面談を行っているか</li> <li>⑨卒業生の会(同窓会等)はあるか</li> <li>⑩卒業生への職業紹介をしているか</li> <li>⑪卒業生の就業状況把握の為の定期的な取り組みを行っているか</li> </ul>
(6) 教育環境	<ul style="list-style-type: none"> <li>①組織図はあるか</li> <li>②学校の年間スケジュールはあるか</li> <li>③図書室・図書コーナー等があるか</li> <li>④キャリアサポートを行う就職支援室・支援コーナー等があるか</li> <li>⑤喫煙に関する規定が文書化・提示されているか</li> <li>⑥環境エコ活動に関する規定が文書化・掲示されているか</li> <li>⑦学内の整理・整頓・清掃に関する規定が文書化されているかまた定期的に管理、チェックがされているか</li> <li>⑧学内外実習時の安全対策に関して文書化されているか</li> <li>⑨学校生活において保険に加入しているか</li> <li>⑩防災対策に対して文書化・組織化されているか</li> <li>⑪防災訓練・研修が定期的実施されているか</li> <li>⑫教育設備・備品等が定期的に管理・点検されているか</li> </ul>
(7) 学生の受入れ募集	<ul style="list-style-type: none"> <li>①学校案内等に目指す資格・検定・コンペが明示されているか</li> <li>②資格・検定・コンペの結果(合格者数・合格率)を公表しているか</li> <li>③学校案内等に学費・教材費・選抜方法等が明示されているか</li> <li>④パンフレット、HP等において就職実績を公表しているか</li> <li>⑤入学に関する問い合わせ等に適切に対応できる体制が出来ているか</li> <li>⑥学校説明会等による情報提供を行っているか</li> <li>⑦入学者に対し学習、学生生活の為のオリエンテーションが行われているか</li> </ul>
(8) 財務	<ul style="list-style-type: none"> <li>①会計監査の結果報告が文書等にて明確化されているか</li> <li>②私立学校法における財務情報公開の体制整備はできているか</li> <li>③備品及び車両に関する管理規定が文書化・管理されているか</li> <li>④物品購入等における複数業者からの確認がされているか</li> </ul>
(9) 法令等の遵守	<ul style="list-style-type: none"> <li>①個人情報保護規定が文書化されているか</li> <li>②セクシャルハラスメントに関する規定が文書化されているか</li> <li>③施設設備の保守・管理が定期的に行われているか</li> <li>④防災・防犯設備(非常灯・消火器・警備システム等)が整備・点検されているか</li> <li>⑤教職員の健康診断がされているか</li> <li>⑥自己点検・評価の為の運用ルールが文書化されているか</li> <li>⑦自己点検・評価の組織があるか</li> <li>⑧自己点検・評価の必要性を全教職員に伝える機会を設けたか</li> <li>⑨自己点検・評価の結果を全教職員で共有する機会を設けたか。結果に基づき計画的に改善を実施しているか</li> <li>⑩自己点検・評価報告書があるか。公表されているか</li> </ul>
(10) 社会貢献・地域貢献	<ul style="list-style-type: none"> <li>①社会的活動(地域活動・地域貢献・ボランティア活動等)を実施しているか</li> <li>②教育資源を地域社会に提供しているか</li> <li>③社会的活動(地域活動・地域貢献・ボランティア活動等)を奨励・支援しているか</li> </ul>
(11) 国際交流	

※(10)及び(11)については任意記載。

(3) 学校関係者評価結果の活用状況

令和2年度「自己点検・評価」に基づき、学校関係者評価委員会、委員のそれぞれの立場から項目ごとにご指摘をいただいた。就職定着率に関しての指摘をいただき、今後の就職定着率に関しては有料職業紹介事業内にて把握していくようにすることを決めた。また、入学後に進路変更を考える学生への早期対応策についてもご指摘をいただき、担任との情報共有相談窓口についても新たに設置できるように検討し、日々の連絡体制の強化につなげた。また技術教育だけでなくコミュニケーション能力向上に関する本校の指導方法等について評価をいただいた。今後も良い点を継続実施し、更なる強化を図る。

(4) 学校関係者評価委員会の全委員の名簿

令和2年4月1日現在

名前	所属	任期	種別
平井 里美	株式会社 永昌堂印刷	平成31年4月1日～ 令和3年3月31日(2年)	企業委員グラフィックデザイン分野
根路銘まりえ	沖縄県立真和志高校 教諭	令和2年4月1日～ 令和4年3月31日(2年)	高校教員
宮里 則徹	在校生保護者	令和2年4月1日～ 令和4年3月31日(2年)	保護者
銘苅 省吾	株式会社 沖縄ハートス	令和2年4月1日～ 令和4年3月31日(2年)	企業委員デジタルデザイン分野
大湾 美佳	COCON	令和2年4月1日～ 令和4年3月31日(2年)	企業委員インテリア建築分野
仲吉あゆみ	にじのいえ	令和2年4月1日～ 令和4年3月31日(2年)	企業委員ファッション分野
比嘉 みずき	株式会社monoii	令和2年4月1日～ 令和4年3月31日(2年)	企業委員マンガ分野

※委員の種別の欄には、学校関係者評価委員として選出された理由となる属性を記載すること。

(例) 企業等委員、PTA、卒業生等

(5) 学校関係者評価結果の公表方法・公表時期

ホームページ・広報誌等の刊行物・その他( ) )

URL:<https://www.ida.ac.jp/information/public/>

公表時期: 令和2年5月

5. 「企業等との連携及び協力の推進に資するため、企業等に対し、当該専修学校の教育活動その他の学校運営の状況に関する情報を提供していること。」関係

(1) 企業等の学校関係者に対する情報提供の基本方針

- ① 実践的な学習における成果を広く周知することにより、入学希望者の適切な学習機会の選択に資する事
- ② 学校関係者評価結果も含めて教育活動の状況や課題等学校全体に関する情報を分かり易く示す事。
- ③ 上記①・②により企業等との連携による教育活動改善を活発にし、社会全体の信頼につなげていく事。
- ④ 情報の公開を通じて学校の教育の質の確保と向上を図る事を目的とする。

(2) 「専門学校における情報提供等への取組に関するガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの項目	学校が設定する項目
(1) 学校の概要、目標及び計画	①学校の沿革 ②特色 ③所在地、連絡先
(2) 各学科等の教育	①収容定員 ②カリキュラム、③目指す検定・公募・コンテスト ④検定・公募・コンテスト実績 ⑤就職状況
(3) 教職員	各学科の担当教員紹介
(4) キャリア教育・実践的職業教育	就職支援等への取り組み状況
(5) 様々な教育活動・教育環境	①学校行事 ②クラブ活動
(6) 学生の生活支援	①在校生の声 ②スクールカウンセラー
(7) 学生納付金・修学支援	①学生納付金 ②奨学金、学費免除等の紹介
(8) 学校の財務	学園の財務状況公開
(9) 学校評価	自己点検・学校関係者評価結果
(10) 国際連携の状況	—
(11) その他	—

※(10)及び(11)については任意記載。

(3) 情報提供方法

ホームページ・広報誌等の刊行物・その他( ) )

URL:<https://www.ida.ac.jp/information/public/>

授業科目等の概要

(工業専門課程インテリア・建築デザイン科(2年制) (インテリアデザインコース) 令和2年度)															
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業 時 数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必修	選択必修	自由選択						講 義	演 習	実験・実習・実技	校 内	校 外	専 任	兼 任	
○			建築デザイン史	今日の建造物の造形意匠を理解する上で最も基礎となる近代建築に関する意匠の諸相を中心に講述する。	1・前	24		○			○	○			
○			建築環境工学	人々が快適に過ごすため、建築における、光環境、採光、温熱環境や日射などの原理を学び、快適な室内環境の創造のため知識を知る。	1・後	18		○			○	○			
○			建築一般構造	各種構造方式の木構造、鉄筋コンクリート構造、鉄骨鉄筋コンクリート造などの概要を講述する。	1・前	30		○			○	○	○		
○			建築材料学	建築物を構成する材料。主にセメント・コンクリートを中心に金属材料・木材などの諸性質について解説する	1・後	30		○			○	○	○		
○			基礎製図演習	建築製図の基礎的演習として各種建築図面の手描きトレースを実施する。	1・前	42		△	○		○	○			
○			建築CAD演習Ⅰ	CAD室のパソコンを利用し、各種基本設計図面のCAD操作を実習指導する。	1・前	36			○	△	○	○			
○			建築CAD演習Ⅱ	CAD室のパソコンを利用し、各種基本設計図面のCAD操作、図面表現を実習指導する。	1・後	36			○	△	○	○			
○			設計演習Ⅰ	建築設計の第一歩である最も身近な建築である「住宅」の設計課題に取り込む。	1・前	78			○	△	○	○			
○			設計演習Ⅱ	専用住宅に始まり中規模な建物をもつ要素を含んだ建築物の設計課題に取り込む。	1・後	168			○	△	○	○		○	
○			図学(ドローイング)	鉛筆による立体描写に始まり、平面図・立面図・展開図からパースラインを意識した透視図の簡略図法(M点法)、2消点簡略図法そして着色トレーニングを課題とする	1・前	36			○	△	○	○			
○			色彩学	人は生活をより快適に過ごすために、「色彩」が果たす役割は非常に大きなものがあり、その重要な色彩を自在に使うには知識と技術が必要である。色彩感覚に自信がないひとでも、配色や色の持つ固有のイメージや、補色や同色系といった組み合わせの理論を知ると色を選ぶ決断が容易になる。	1・前	12		△	○		○	○			
○			モデリング	平面的表現である図面を読み取り、立体的な表現方法にし、空間を想像する。各種材料の利用方法とそれらの加工をする用具の使用技術をみにつける。模型の目的別、範囲別の種類(スタディ、外観、インテリア、外構、軸組)を知る	1・前	33			○	△	○	○		○	



(工業専門課程インテリア・建築デザイン科(2年制) (インテリアデザインコース) 令和2年度

分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
○			インテリア計画	演習を交えながら、実践的に必要な室内空間計画の動線を知る。 各部屋の役割と生活行為を創造する。	1・前	18		△	○		○		○		

(工業専門課程インテリア・建築デザイン科(2年制) (インテリアデザインコース) 令和2年度

分類			授業科目名	授業科目概要	配当 年次・ 学期	授 業 時 数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企 業 等 と の 連 携	
必 修	選 択 必 修	自 由 選 択						講 義	演 習	実 験 ・ 実 習 ・ 実 技	校 内	校 外	専 任	兼 任		
○			店舗設計	店舗設計では、商業空間イメージの発展のさせ方、エスキーススケッチの描き方、店舗図面のルール・作図など一連の流れを知る。	1・前	63		○	△	○		○				
○			プレゼンテーション演習	設計演習にて設計した自らの作品をいかに分かりやすく的確に効果的に第三者に理解してもらうための表現方法、技術を身につける	1・通	12		△	○		○		○			
○			志学Ⅰ	KBC学園の教育理念に掲げられた「人財」を目指し、人間性を磨き各自の「志」をたてるために「学生クレド」について理解を深め、望ましい価値観や考え方を身に付ける	1・通	15		○	△		○		○			
○			インターシップ1	関連企業を通し、資格や先進技術、職種の構成をしり、実作業を体験する中で学んでいる内容がどのように展開されているかを知り、自らの就職活動に役立てる。	1・後	54			○	△		○	○	○		
○			色彩士検定対策	色彩学で学んだ知識を色彩士検定3級で理解度を位置づける。	1・前	30		○			○		○			
○			LSP(ライフスタイルプログラム)	①インテリア、建築、ファッションの領域を超えて様々な環境・人・モノ・コトを多角的な視点で考察する ②与えられたテーマを基に、商品企画から制作、販売までの流れを知る ③グループ学習を通し他者の意見を理解し、お互いの価値を認める	1・通	51		△	○		○	○	○	○		
○			就職実務/企業研究	働くとはどういうことか、業種や職種、仕事と責任、コミュニケーション等 前向きに就職活動が進められるよう働くための基礎を身につける	1・通	63			○			○		○		
○			フォローアップ演習	前期試験、後期試験、課題演習での振り返りを行い内容を強化、おさらい、確認をし 弱点強化を目的として行う	1・後	9		△	○		○		○			
	○		家具制作	前期設計課題の住宅設計やインテリア計画で空間寸法を学んだ知識を実寸の家具制作に落とし込む。家具を設計することで、インテリア空間を読み取る考察力を身につける。	1・後	33					○	○		○		○
○			建築法規Ⅰ	建築基準法の意義・構成・用語・面積算定・単体規定・集団規定の必要性を講述する。	2・前	30		○			○		○			
○			建築設備	電気設備、給排水・衛生設備、空気調和設備、防災設備、搬送設備等テキスト及び実物の見学も含め学習する。	2・前	30		○			○		○			

## (工業専門課程インテリア・建築デザイン科(2年制) (インテリアデザインコース) 令和2年度)

分類			授業科目名	授業科目概要	配当 年次・学期	授 業 時 数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
○			構造力学	構造力学の基礎、断面の性質、建築構造物を合理的かつ経済的に設計するための基礎となる力学について講述する。	2・前	30		○			○		○		
○			建築施工Ⅰ	建築物の構築の流れ、設計監理としての確認事項等を理解する。	2・前	24		○			○	○	○		
○			西洋建築史	西洋建築様式の形態的特徴や美術・宗教・生活・政治・地理等との関わり、及びこれらが現代とどう結びついているかなど、テキスト及び映像を使い講述。	2・後	30		○			○		○		
○			建築計画Ⅰ	住宅建築設計の居住空間において、人間が安全で快適に過ごすための動線計画から、空間構成、形態、利用者心理、環境配慮といった基礎を学ぶ。	2・前	30		○			○		○		
○			インテリア設計演習	インテリア設計の基礎的手法を知り、更に動線計画といった計画的領域から、空間構成、形態、利用者心理、環境配慮といった設計方針に至る一連の作業を考察する。	2・前	172			○	△	○		○		
○			建築CAD演習Ⅲ	CAD室のパソコンを利用し、各種基本設計図面のCAD操作を実習指導する。	2・前	21			○	△	○		○		
○			インテリア卒業研究	2年間の学習成果として、テーマ性がより社会的となったり、完成された形態に芸術性を求めたりという具体的に公共性・総合性を設計行為を考察する。	2・後	228			△	○	○	○	○		
○			BIM演習1	Vetorworksソフトを使い2次元から3次元の作図する。BIMの特徴である図面からモデリングの視覚化の表現を身につける。	2・後	18			○	△	○		○		
○			プレゼンテーション演習	自分が設計した作品をクライアントや第三者に的確に、効果的に理解してもらうための表現技術を修得する。	2・通	26		△	○		○		○		
○			建築CAD検定対策	建築CADⅢ習得した技術・知識を建築CAD2級で理解度を位置づける。	2・後	12			○		○		○		
○			インテリア概論	建築の形態と空間構成の要素を学び、建築の美の原理(空間造形の基本)を解明していく。また、各デザイナーの思想に触れることでデザインボキャブラリーの集積とする。	2・前	14		○			○		○		
○			志学Ⅱ	志高く生きた人々に学び、能動的に行動するために考える力、伝える力を磨き、自身の働き方、社会人としてのあり方を整理し自身の「志」(目標)を立てる。	2・前	16		○			○		○		
○			インターシップ2	インテリア・建築を志す学生が進路の決定する上での助けとなるように、実際の設計事務所、施工現場、家具販売などの制作活動、仕事の進め方に接し実社会において働く心構えを持たせることを目的とします。	2・前	45			○				○	○	

(工業専門課程インテリア・建築デザイン科(2年制) (インテリアデザインコース) 令和2年度

分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
○			インテリア計画Ⅱ	演習を交えながら、実践的に必要な室内空間計画のポイントをおさえる	2・前	22		○			○		○		
○			LSP (ライフスタイルプログラム)	①インテリア、建築、ファッションの領域を超えて様々な環境・人・モノ・コトを多角的な視点で考察する ②与えられたテーマを基に、商品企画から制作、販売までの流れを知る ③グループ学習を通し他者の意見を理解し、お互いの価値を認める	2・通	51		△	○		○	○	○	○	
○			企業研修 インテリアコーディネーター対策	国内外の建築・インテリアデザイン作品を各自で取り上げ、その時代の建築家・デザイナーとその思想、社会状況、デザイン、技術等について理解を深める。広く社会の中における建築・インテリアの職務について学ぶ。	2・通	66		△	○		○		○		

(工業専門課程インテリア・建築デザイン科(2年制) (インテリアデザインコース) 令和2年度

分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
合計				40科目				1756	単位時間(		)		単位)		

卒業要件及び履修方法	授業期間等	
<p>(試験)</p> <p>1. 学業成績は、授業科目ごとに行う試験ならびに課題提出によって、これを定める。ただし、授業科目によってはその他の方法で査定することができる。</p> <p>2. 試験には定期試験、再試験および追試験、課題再提出等がある。再試験はやむを得ない事故等により定期試験を受けなかった者に対して行い、追試験は受験の結果、不合格となった者のため、課題再提出は作品基準を満たさない場合にこれを行う。</p> <p>3. 再試験および追試験、課題再提出は本校において必要と認めたときに限り、これを行う。</p> <p>(学業成績)</p> <p>学業成績の判定はA、B、C、Dの4種をもってこれを表し、Aは80点以上、Bは60点以上、Cは50点以上、Dは49点以下とし、A、B、Cは合格、Dは不合格とする。</p> <p>(卒業)</p> <p>本校に在学し、下記に定める授業出席率以上履修し、かつ、その該当する所定の授業科目について各学年末における試験ならびに課題を提出後に合格し、卒業資格を得た者は、卒業証書を授与する。</p> <p>(1) 授業課題提出率100%かつ修了制作、卒業制作を提出し、各科目の90%以上の出席をもって卒業とする</p>	1学年の学期区分	2期
	1学期の授業期間	24週

(留意事項)

- 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。
- 企業等との連携については、実施要項の3(3)の要件に該当する授業科目について○を付すこと。